

成人T細胞白血病の原因ウィルスである

HTLV-1の母子感染を 予防しよう



日本産婦人科医会

1 成人T細胞白血病 (ATL) について

ATLの原因ウィルスは、HTLV-1 (human T-cell leukemia virus type 1) です。

ATLは、熱っぽい、だるい、リンパ節が腫れる、発疹がでるなどの症状ではじまります。進行がはやいタイプのATLは、抗がん剤がきかないため、1~2年で亡くなってしまうことが多い白血病です。

HTLV-1は、母乳にたくさん含まれているリンパ球から赤ちゃんに感染します。

HTLV-1に感染した(キャリアになった)赤ちゃんは、40年くらいたってから、年間1000人に1人の割合でATLを発症します。

しかし、妊婦が、HTLV-1キャリアであることがわかれば、赤ちゃんへの母乳のあげ方を工夫することによって、HTLV-1の母子感染が防げるのです。



HTLV-1に感染した赤ちゃんの
40年後のATL発症の割合

1人



1/1000人 (年間)

2 HTLV-1の母子感染について

日本では、すべての妊婦さんに妊婦健診でHTLV-1スクリーニング検査が行われています。HTLV-1キャリアの診断は、スクリーニング検査で陽性であった妊婦さんに確認検査をして決定します。

日本産婦人科医会の調査によって、年間100万人いる日本の妊婦さんのうち、1600人の妊婦さんがHTLV-1キャリアであることが判明しました。

HTLV-1キャリアのお母さんが母乳を与えつづけると、約20%の赤ちゃんがHTLV-1キャリアになりますが、たとえば、母乳をやめて人工乳（ミルク）にすると赤ちゃんのHTLV-1キャリアは2~3%くらいに減るのです。



母子感染における赤ちゃんへのHTLV-1感染の割合



3 HTLV-1キャリアと診断された妊婦さんへ



母乳をどうしてもあげたいと思われる妊婦さんには、短期間（生後3ヶ月）だけ母乳を与える方法や、いったん凍結した母乳を与える方法も効果があるといわれていますが、しっかりしたデータがまだありません。そのため、母乳のあげ方の違いが、将来赤ちゃんにどのように影響するかを調べる研究を続けています。

この件に関しては、担当医とご相談ください。

赤ちゃんのHTLV-1感染の診断は、3歳を過ぎてからのHTLV-1スクリーニング検査で可能です。

HTLV-1キャリアのお母さんには、母子感染予防をおこなってもらいますが、同時に、お母さんのフォローアップも大切です。

(産婦人科医は、各都道府県にある母子感染対策協議会と連携して、お母さんが安心して生活が送れるように配慮しています。)

問合せ先：日本産婦人科医会 HTLV-1 研究班 TEL:03-3269-4739 FAX：03-3269-4730